



ニイハオ 你好

16



△小学生(7歳)の作品

嘉興市建設中心小学校

嘉興市建設中心小学校は、1912年に創立された、大変歴史のある小学校です。品德・智力・体力と三拍子そろった「三好学生」の育成に力を入れており、教育内容は、量・質ともに他校よりすぐれています。

特に体育の面においていろいろな表彰を受け、校技のサッカーは省内大会優勝の実績を持っています。

児童数は1,002人、20学級で、教職員数は49人です。授業は7時45分から15時35分までで、昼食は自宅でとります。授業科目は、国語・数学・道徳・体育・音楽・美術・歴史・地理・自然・衛生・労働・課外活動で、1時限は40分です。

特筆すべきは習字で、ここの小学生は一年生でも日本人の大人顔負けの字を書きます。水墨画もかいており、中国では、墨と筆を使うことにおいて、習字も水墨画も同一のものとして考えられています。

春は別れと出会いの季節。皆さんの家庭でも卒業・入学・進学・就職とそれぞれの春があつたかと思ひます。編集室でもベテランの職員二人が人事異動となりました。新体制になれるまで、しばらく大変ですが、市民の皆様により親しまれる広報紙づくりを目指して頑張ります。これからもよろしくお願ひします。

こちら編集室

猫のタマ

津田に伝わる民話



昔、津田村に裕福な一軒の旧家がありました。しかし、この家は仕事の失敗で、だんだん暮らしが苦しくなり、とうとう雨漏りのするあばら家になってしまいました。その上、主人が病気で、稼ぐこともできません。その家に、ずっと前からタマという一匹の猫が飼われていました。主人は毎日、少ない御飯をタマと分けあつて食べていました。ある日、夕飯を食べた後、寝るころになって、「タマや、もう寝ることにしよう」と言つて、タマを捜しましたが姿が見えません。どこかへ遊びに行つたのだらうと思つて、主人は寝てしまいました。翌朝、主人がまくら元をふと見ると、お金が置いてあります。数えると八文です。「おや？こんなはずはない。確かに何にも置かなかつたはずだ」と、わけがわかりません。でも、主人にしてみれば八文というのは

大金です。(きつと神様が恵んでくれたんだらう)と神棚を拜んでお金をいただくことにしました。その次の朝も、まくら元にお金が置いてあります。次の朝も、その次の朝も……。不思議に思つた主人は、夕飯を食べて外へ出かけるタマを、そつとつけてみました。そんなこととは知らないタマは、河原へ出て、あたりを見回してから、川の中に生えている青い藻を前足で取つては頭につけます。それを何度も繰り返して、タマは目の不自由な人の姿になりました。「そうだったのか。タマが盲人の姿になって、人からお金を恵んでもらつていたのか」と思つと、涙がほおを伝わりました。ある晩、主人は、「タマよ、おまえにまで苦勞をかけてすまない。でも、私も体が丈夫になつて、働けるようになったからもうやめてくれ」と言いました。次の日、タマはどこかへ姿を消したということです。

地名の由来

は島 (伝法地区)
うり瓜



瓜島の本光寺の創建が天正のころ(一五七三〜九一年)だったので、瓜島村の開発はそのころであつたと思われれます。開発者は、一説では武田の遺臣石川安兵衛であつたと言ひます。「瓜島」とは、この付近で伝法瓜がよく実つたからだと言ひ説もあります。瓜というのは西瓜のことかも知れませんが。この村は明治二十二年に伝法村と合併しました。しかし、水害の常襲地のため、大正のころ民家は二十戸前後しかなかつたそうです。